

理想の合併は「本庁機能は小さく、支所は大きく」

大垣市会議員 笹田トヨ子

この夏、周辺市町村から合併を求められている木曽福島町を訪問し、合併に対する考え方や住民参加の町づくりについて田中勝己町長にお聞きしました。

地方自治の理想は直接民主主義で、そのためには、小学校区単位で地域自治組織をつくり“本庁機能はなるべく小さく、支所機能は大きくする”のがよいこと、地域協議会（地域自治組織に）に執行権や審議権を付与し、公募による住民参加といった構想です。

住民が主人公の町づくりとは、「町長は権力者であってはいけない、報酬はもっと安く、町職員も他の住民並の給与で、町長のなり手が無いくらい旨みの無いものにする。そして、情報公開をしっかりと行い財政の使い方など町民に権力を与えること。議会は仕事をもっている人でも参加できるように夜や休日に開催、もちろん報酬は安く誰でもできるものにする」等。

わが街の実態とは正反対で、これこそ21世紀の地方自治のあり方ではないかと思いました。このような地域自治組織の試みは、合併をすすめる町だけではなく、大都市の中にもその動きがあり、今後どのように発展していくのが注目しています。